営農ウィークリーNEWS

ジャンボタニシ被害を防ごう！

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）

ジャンボタニシの卵塊

ジャンボタニシ被害にあった水田

和名	スクミリンゴガイ、ジャンボタニシ
学名	Pomacea canaliculata
英名等	Apple snail
自然分布	南米
形態	殻高5cm 以上になる大型の巻貝。最大で8cmほどになる。殻の形状はタニシ様で、赤褐色の帯が 10～15 本ある。殻の螺層の縫合がくぼんだ溝状になる。
生息環境	淡水性、水田など。温度選好性：低温耐性は低く、0℃で 25 日、－6℃で 24 時間以内に死亡。冬季は土に潜る。
繁殖生態	雌雄異体。雌貝が夜間水上に出て植物体や水路壁に鮮紅色の卵塊を生む。1 卵塊に 200～300 卵程度で、産卵頻度は 3～4 日に一度、焼く 10 日で孵化し、2 ヵ月程度で成熟する。繁殖期：特に無し。沖縄では、1～2 月を除いて通年繁殖。
生態的特性	鰓と肺様器官を持ち、水中では鰓呼吸、空気中では肺呼吸する。雨の日などは畔も横断する。乾燥した条件では口蓋を閉じて代謝を下げ、長期間生存する。

※国立環境研究所 HP より引用

1980 年代に食用目的で日本に導入されたスクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）は野生化し、基本的に柔らかい葉を好んで食べ、移植直後のイネで食害による欠株の被害が発生しています。本年の冬季の気温は総じて高く、寒さに弱い貝は越冬する数も多めと予測されることから、今年は被害の増加が予測されます。

被害状況の特徴ですが、田植え後 20 日までのイネが柔らかい時期に集中しており、水温が高くなるほど活動が活発になり被害が増加します。また、深水になる田面の低い箇所やマクラ周辺に被害が目立ち、大型になるほど食害量は大きくなります。

そのような食害から守るためには圃場への侵入を防ぐ「入れない」、貝がイネに寄り掛かれないよう「食べさせない」、越冬個体を少なくする「広げない」ことがポイントです。

具体的な対策としては以下のことが必要となります。

(1) 水路の泥上げや取水口からの貝の侵入防止など用水路や取水口の管理をしっかりとする。

(2) 貝は水中でしか稲を食べることができないので、水深４㎝以下とできる限り浅水管理を行う。

(3) 冬場に耕耘し物理的に破壊したり殻を傷つけ寒さの耐性を低下させることや、卵は水面下へ払落し個体を駆除する。

それでも食害が発生したら防除剤で迅速に対応しましょう。詳しくは JA、普及センターにご相談ください。近年増加しているゲリラ豪雨などの多量の雨水が貝の移動手段となった急激な多発には、特に早急な対策が必要となります。

的確な対応でガッチリとイネを守り、実りの秋に繋げましょう。

ーＴＡＣ information－ オススメ薬剤「スクミノン」

上記のような対策を行っても、ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）被害が発生してしまう場合があります。

また、一旦発生してしまうと、すべてを駆除することは非常に困難で毎年被害が発生してしまう可能性が非常に高くなります。

その場合には、薬剤での防除をオススメします。

毎年被害が発生する場所では、移植直後や被害発生前に散布して下さい。

※裏面にチラシを掲載しています。

ＪＡ京都中央　令和２年３月１０日　No.４８８　作成者 齊藤篤

分　類	使用可否
一般米	可　○
飼料米	可　○
WCS	否　×

農林水産省登録
第２２１５３号

誘い出してやっつける!
ジャンボタニシ防除に

殺虫剤

スクミノン®

メタアルデヒド粒剤

ジャンボタニシを誘引！
摂食して効果発現！
速効的に効く！

れんこんに適用拡大！

散布から効果発現まで

スクミノンを餌と思い近づきます。　スクミノンを食べます。　数分で麻痺が起こり、殻の中に閉じこもります。　薬剤処理した部分の状態。

スクミノンを食べると数分で麻痺が起こり、完全に死亡します。

自然に学び 自然を守る
クミカ

®はサンケイ化学㈱の登録商標です。

ジャンボタニシ防除剤

スクミノン®

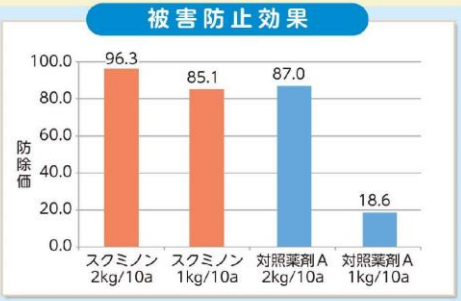
登録番号：農林水産省登録　第22153号
有効成分・含有量：メタアルデヒド　10.0%
剤　　型：淡褐色粒状（ベイト剤）
人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）
包　　装：2kg袋×8、10kg袋×1

■適用害虫名及び使用方法

2018年2月28日現在の登録内容

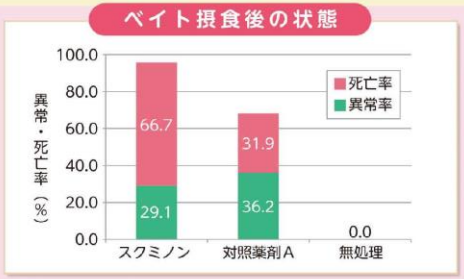
作物名	適用害虫名	10アール当り使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタアルデヒドを含む農薬の総使用回数
稲	スクミリンゴガイ	1～4kg	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
れんこん		4kg	収穫45日前まで			

被害防止効果



試験場所：鹿児島県姶良郡加治木町　一般生産圃場
実施期間：2014年7月2日～7月9日
対象作物：水稲（品種：ゆめはやと）　6月30日移植
対象害虫：スクミリンゴガイ（殻高2～3cm）
区　　制：1区　100㎡(10×10m)　連制なし
薬剤処理：7月2日に各区所定量の薬剤を散布
試験方法：移植後、水深5cm以下になるように穴をあけた畔波シート（高さ30cm）で区割りを行った。密度が低かったため、試験区内に殻高2～2.5cmの個体を平米あたり1.8頭放飼した。
調査方法：薬剤処理7日後に各区150株（50株×3箇所）について、食害株数及び欠株数について計数を行った。
<食害度算出方法>
食害度＝{(食害株数×1＋欠株数×3)／3×調査株数} ×100

ベイト摂食後の状態



試験場所：鹿児島県南九州市川辺町　一般生産圃場
試験期間：1回目…2014年7月16日～17日
2回目…2014年7月18日～19日
対象害虫：スクミリンゴガイ（殻高2.6～3.0cm主体）
対象植物：水稲（品種：ヒノヒカリ）
区　　制：1区　18～28頭　2反復
処理方法：圃場内のスクミリンゴガイを捕獲し、同一圃場内の縁部にあたる湛水部分で1頭あたり1粒を与え、摂食させた。摂食後、スクミノンまたは対照薬剤Aを供試し、異常行動を起こした貝を回収し、50cm×50cmの容器（※1）に移した。また、ベイトが殻の中に入り込まないように、異常を呈して摂食しなくなった時点でベイトを除去した。
※1：50cm×50cmの容器とは、水稲除草剤試験時に用いるプラスチック製の無処理枠であり、枠を圃場内に設置後、貝の逃亡防止用に3mmメッシュの網で上部を被覆したものを示す。枠内の水深は3～4cmを維持した。
調査方法：処理後経日毎の状態（健全、異常、死亡）を調査。異常個体は殻の中に閉じこもって動かないか、異常行動を呈する個体とした。

使用上の注意事項

●は種後または移植後、被害発生前に散布してください。
●本剤は湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しをしないでください。
●水田以外には絶対に使用しないでください。
●発生が多く認められる場合、登録の範囲内の多めの薬量で使用してください。
●本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に、初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意

●本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
●散布の際は、農薬用マスクなどを着用してください。使用後は、うがいをしてください。
●犬、猫などのペット類や家畜、家禽等が多量に食べると死亡する恐れがあるので、食べる可能性のある場所での保管及び使用はしないでください。
●直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温な場所に密封して保管してください。

★使用前にラベルをよく読んでください。
★ラベルの記載以外には使用しないでください。
★使用後の空袋は圃場や用水路などに放置せず、適切に処理してください。
★本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は平成30年2月28日現在の知見に基づいて作成しております。　1517(18-2)

ＪＡグループ
農協　全農　経済連
全農は登録商標　第4702318号

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社:〒110-8782 東京都台東区池之端1-4-26 TEL.03-3822-5036
ホームページ　http://www.kumiai-chem.co.jp